

【入選】

セーヌ川から水質問題を考える

仙台市立上杉山中学校
三年 鶴谷莉子

「え、こんなに汚いところを泳ぐの。」

私はパリオリピックのトライアスロンの中継を見て、パリのセーヌ川の様子に衝撃を受けた。パリの華やかなイメージとはかけ離れ、川の水は茶色く濁っていたのだ。透き通ったきれいな川をイメージしていた私は、なぜここまで汚れてしまっているのかと疑問に思った。その理由を父に聞いてみると、生活排水が川に直接流れ込んでしまっているからだと言われてもらった。更に詳しく調べてみると、セーヌ川は古い下水道処理である「合流式下水道」だということが分かった。「合流式下水道」とは、雨水や家庭などの汚水と同じ管路で集め、汚水と一部の雨水を浄化センターまで送り、それ以外の雨水を川や海に放流する方式のことだ。この方式だと、多量の雨が降った場合、一緒に汚水も川に流してしまいうため、川や海が汚染されてしまう。パリで環状下水道が作られた頃は、現代のように水質汚染を考えている時代ではなかった。合流式下水道が用いられているため、セーヌ川は汚れているのだ。

では、日本の川は比較的きれいだと言われるが、下水処理の方法がパリとは異なるのだろうか。新たに調べてみると、日本でも古くに下水道を整備してきた東京などの都市部では、合流式下水道が採用されていることがわかった。合流式とは別に「分流式下水道」という下水道処理の方法もある。これは、雨水や家庭などの汚水を、別々の管理で集め、雨水は川や海へ、汚水は浄化センターに送る方法だ。しかし、分流式に変更するためにはたくさんのお金と時間が必要となる。そこで日本では、雨の降り始めの特に汚れた下水をためておく施設の整備や、合流式下水道から汚水が川や

海に流れる量を減らすなどの対策を行っている。

私が住んでいる仙台市の下水道処理について調べてみると、中心部や古くからの住宅街は合流式が多いことがわかった。私も何度か川遊びに出かけたことのある広瀬川がきれいなのも、この対策の成果が出ている証拠だと感じた。

私は、ここまで様々なことについて調べてきて、川を汚染する原因についてきちんと理解していないことに気付いた。私が住んでいる地域も合流式下水道が利用されているので対策をしているとはいえ、絶対に汚水が川に流れ込まないということではない。私たちにもできる対策はあるのだろうか。まず、日本の川の水質汚濁の原因として、一番大きなものに有機物が挙げられる。その中でも最大の原因は、家庭の台所などから出る生活雑排水と言われている。かつては、水の汚れの原因は工場などから出る産業排水と言われてきたが、工場などに対する規制が強化され、排水処理対策の進んだ今日では、生活排水が汚れの大きな原因となっているのだ。有機物の例として、食べ残しや飲み残し、料理の作りすぎ、畜産排水などがある。そして、その有機物が最も多く出される場所が家庭である。

そこで、川を汚さないように私たちができる対策を具体的に考えてみた。家庭内で生活排水が多く出される要因として、台所と洗濯の二つが挙げられる。まず、台所でできる対策として、食べ残しを出さないように料理を作りすぎないこと、食器のひどい汚れや油汚れは紙で拭いてから洗うこと、生ゴミを流さないことなどがあると考えた。また、料理をするときには、油はなるべく使い切るようにして、残った場合は牛乳パックに入れた新聞紙に吸わせて可燃ごみとして処理することも挙げられると思う。二つ目の洗濯では、洗剤を正しく計って使うことで川や海を汚すことを防ぐことにつながる。

これらの仕組みや対策を周囲の人に伝え、実践することで、きれいな川を守っていききたいと思う。